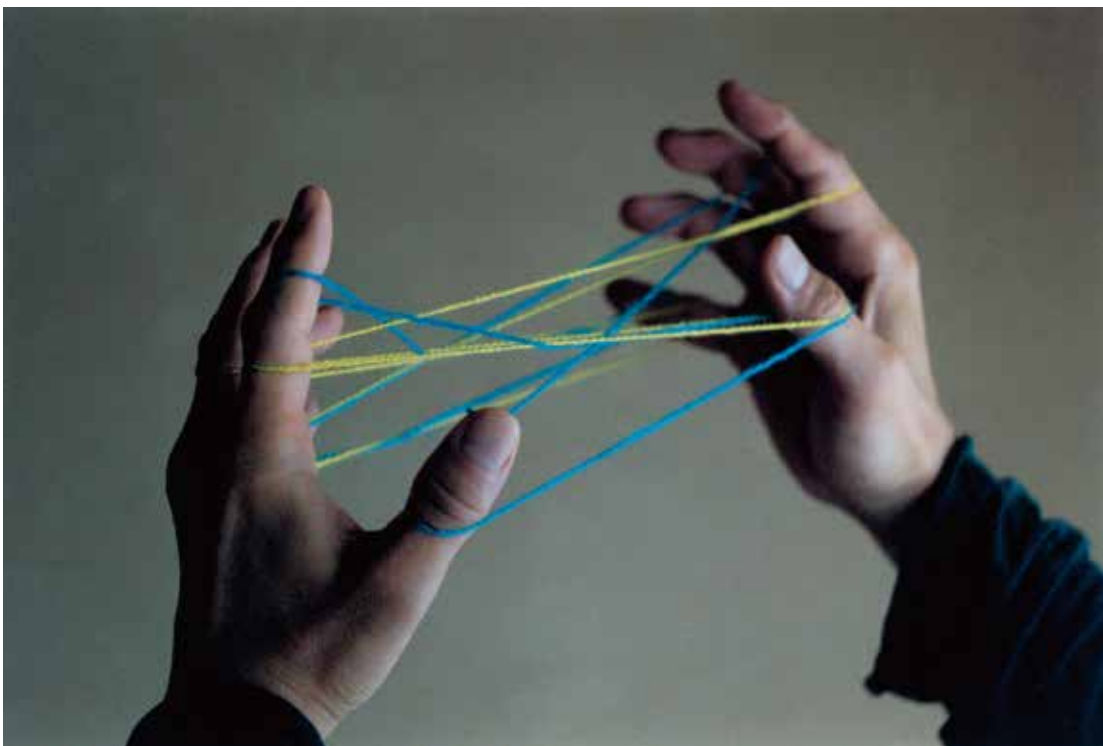


ミナ ペルホネン / 皆川明 つづく minä perhonen / minagawa akira TSUZUKU



1) ©Photograph Yoshihiko Ueda

本展のみどころ

- ・ 関西の美術館で初の「ミナ ペルホネン」展。過去最大規模でミナ ペルホネンと皆川明の創作に迫ります。同展東京会場では、14万人以上が来場。
- ・ 会場構成に田根剛、グラフィック・デザインに葛西薫が参加。
- ・ 皆川明原案、建築家・中村好文設計による新たな「宿」のプロトタイプを展示。
- ・ 現代美術家・藤井光がミナ ペルホネンの世界を撮り下ろした映像作品が誕生。

開催趣旨

はじまり おわり すすみ もどる 心と象のつくるとつづく

beginning, ending, enhancing, returning, mind and shape, circle of creation goes on...

デザイナーの皆川明（1967-）が設立したブランド、ミナペルホネン。流行に左右されず、長年着用できる普遍的な価値を持つ「特別な日常服」をコンセプトとし、日本各地の生地産地と深い関係性を紡ぎながら、オリジナルの生地からプロダクトを生み出す独自のものづくりを続けてきました。

皆川がミナペルホネンの前身となる「ミナ」を立ち上げたのは1995年。「せめて100年つづくブランドに」という思いでファッションからスタートした活動は、その後、インテリアや食器など次第に生活全般へと広がり、現在ではデザインの領域を超えてホスピタリティを基盤にした分野へと拡張しています。そのたゆまぬ歩みは、2020年に25周年を迎えました。

本展覧会の「つづく」というタイトルは、文字通りブランドの時間的な継続性を示すものですが、それだけでなく、つながる・連なる・手を組む・循環するなど、モノや人が連鎖し何かを生み出していく生成のエネルギーを想起させる言葉でもあります。多義的な意味をもつ「つづく」をキーワードに、本展覧会では、生地や衣服、インテリア、食器等のプロダクトに加えて、デザインの原画、映像、印刷物、皆川明の挿絵など創作の背景を浮き彫りにする作品群や資料も併せて展示いたします。

ミナペルホネンと皆川明のものづくりとその思考をこれまでにない規模で紹介する本展覧会は、私たちの日常生活やその先にある社会の仕組みについて新たな視点と示唆をもたらすことでしょう。

展示構成：田根剛（Atelier Tsuyoshi Tane Architects）

展示構成補助：阿部真理子（aabbé）

グラフィック・デザイン：葛西薫（sun-ad）

開催情報

特別展

ミナペルホネン／皆川明 つづく

minä perhonen / minagawa akira TSUZUKU

会期： 2020年7月3日 [金] - 11月8日 [日]

開館時間：午前10時 - 午後6時（金・土曜日は午後8時まで） ※入場は閉館の30分前まで

休館日：月曜日（ただし8月10日 [月・祝]、9月21日 [月・祝] は開館。8月11日 [火]、9月23日 [水] は休館。）

会場： 兵庫県立美術館 企画展示室（〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1）

主催： 兵庫県立美術館、朝日新聞社

協賛： 公益財団法人伊藤文化財団

特別協力：公益財団法人日本教育公務員弘済会 兵庫支部

チケット：新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、入場は日時指定による事前予約制とします。

詳細は展覧会特設サイト（mina-tsuzuku.jp）に記載しております。

観覧料金：

区分	料金	販売場所
一般	1,400円	あさチケ／ローソンチケット で予約購入
（親子券：一般1名＋高校生以下3名まで）		
大学生・専門学校生	1,000円	兵庫県立美術館予約サイト
70歳以上	700円	
障がい者 一般	350円	
大学生	250円	
高校生以下	無料	

チケットの予約開始日：

毎月1日・15日の10:00より、2週間分の予約を順次開始します。
（初回の開始日のみ6月19日となります）

7月3日（金）—7月15日（水）のチケット

>>>6月19日（金）10:00より予約開始（Lコード：53111）

7月16日（木）—7月31日（金）のチケット

>>>7月1日（水）10:00より予約開始

8月1日（土）—8月15日（土）のチケット

>>>7月15日（水）10:00より予約開始

以降も、毎月1日・15日に順次2週間分の予約を開始していきます。
Lコードは発行され次第随時掲載します。

チケットの販売状況は、各予約サイトからご覧いただけます。

展覧会構成

実
tambourine
タンバリン

ミナ ペルホネンを代表する刺繍柄の tambourine (タンバリン)に焦点を当て、一つのデザインが生まれてから、生地になり、洋服やインテリアなど様々なプロダクトに展開していく様子を紹介します。



2) [参考図版] 本展東京会場「実」セクション 撮影：吉次史成



3) “tambourine” 2005-06→AW

森
pieces of clothes
洋服の森

設立当初から現在にいたるまでの約25年分の服、400着以上を一堂に集め、年代をミックスして展示します。最新の服も過去の服も分け隔てがなく、価値に変わりがないとするミナの哲学が現れています。



4) [参考図版] 本展東京会場「森」セクション 撮影：吉次史成

風
 life and design
 生活とデザイン

ミナペルホネンの服を着ている人の「日常」を、映像作品でご覧いただきます (映像制作：藤井光)。



5) “sky flower” 2012-13→AW 原画 photo: Yurie Nagashima

芽
 design
 テキスタイルのための
 デザイン

ミナペルホネンのものづくりの特徴は、生地からデザインして洋服に仕立てる事です。ここでは皆川明とインハウスのデザイナー田中景子等による生地のためのデザイン画を紹介します。



6) “one day” 原画 2018-19→AW photo: sono (bean)



7) [参考図版] 本展東京会場「種」セクション 撮影：吉次史成

種
 アイデアと試み

ミナペルホネンの幅広い活動の根幹にあるものづくりの哲学やアイデアを、過去・現在・未来の試みを通して紹介します。

根
minagawa akira
皆川明の創作

皆川明の個人の活動にスポットを当て、
新聞連載のために描いてきた挿画や
新作ペインティングを展示します。



8)「高揚」朝日新聞・日曜に想う 2016年8月28日掲載 挿画

土
memory of clothes
洋服と記憶

何年にもわたり、その人の人生に
寄り添い、ともに時を重ね、使い手
の人生の一部になっていく服。ここ
では、服とその持ち主との関係性
に焦点を当てて、個人が所有して
いる愛用品を、彼らが語る服との
エピソードと共に紹介します。



9) [参考図版] 本展東京会場「土」セクション 撮影：吉次史成

空
25 years

展覧会の最後に、
ミナベルホネンの活動の軌跡と、皆川明が
この展覧会に込めた思いをインタビュー映像
でご覧いただきます。

関連イベント

当初予定していたイベントにつきましては、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点より、お知らせしていた形での実施は困難であると判断し、中止を決定いたしました。

これにかわるものとして、インターネット上でのイベントの特別映像の配信を行います。
この他にも会期中に映像が追加される可能性があります(▼)。
詳細が決まりましたら、展覧会特設サイト (mina-tszuku.jp) でご案内します。

CROSS TALK

皆川明が各界で活躍するクリエイターとトークをします

① 中村好文 (建築家)

ふたりが共作した「shell house」内でクロストークを行います。

※ 展覧会特設サイト上で動画を公開しています。

② ナガオカケンメイ (デザイン活動家)

minä perhonen が6月にオープンした「puukuu 食堂 (プークー食堂)」にて「つづく」をテーマにクロストークを行います。

※ 展覧会特設サイト上で動画を公開しています。

TRIPARTITE TALK

皆川明 × 田中景子 × 長江青 「ミナ ペルホネンをつくる」

ミナ ペルホネンとともに作ってきた中心メンバー3人によるトークです。

※ 9月開催予定。

※ 配信・視聴方法は後日発表いたします。

▼9月2日現在の追加映像 (展覧会特設サイト上で公開中)

- ・兵庫展開催にあたって皆川明からのメッセージ
- ・皆川明によるギャラリートーク



10) [参考図版] 本展東京会場風景 撮影：吉次史成

お問い合わせ先

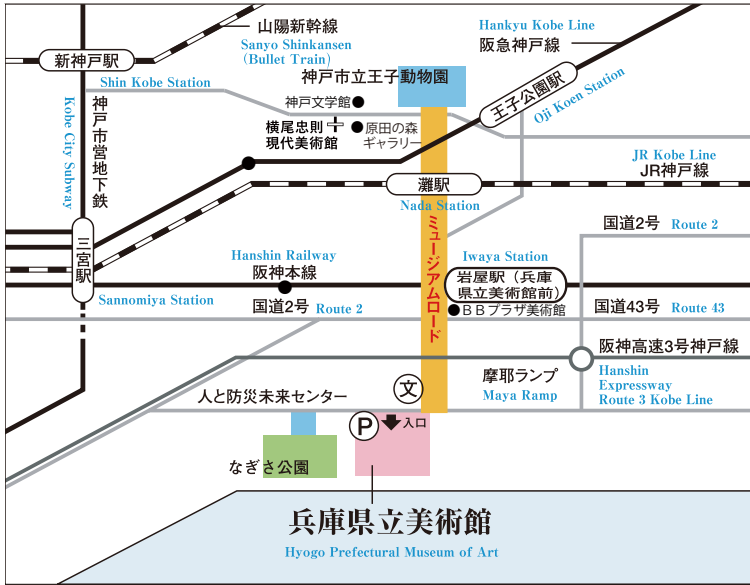
兵庫県立美術館
 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1
 TEL: 078-262-0901 (代) FAX: 078-262-0903 (代)
<https://www.artm.pref.hyogo.jp>

取材・画像提供に関すること
営業・広報担当
 TEL: 078-262-0905 (担当直通) FAX: 078-262-0903
 e-mail: press@artm.pref.hyogo.jp

展示内容に関すること
 担当学芸員：河田亜也子 (かわだ あやこ)、小林公
 e-mail: (主担当： kawada@artm.pref.hyogo.jp)
 TEL: 078-262-0909 (学芸直通) FAX: 078-262-0913 (学芸直通)

【交通案内】













- ・ 阪神岩屋駅 (兵庫県立美術館前) から南に徒歩約8分
- ・ JR神戸線灘駅南口から南に徒歩10分
- ・ 阪急王子公園駅西口から南西に徒歩約20分
- ・ JR三ノ宮駅南から神戸市バス (29、101系統) 阪神バスにて約15分
 HAT神戸方面行き「県立美術館前」下車すぐ
- ・ 地下駐車場 (乗用車80台収容・有料)






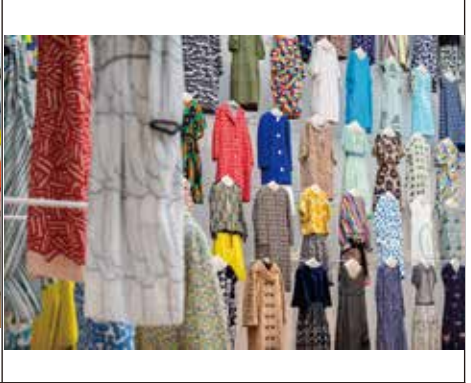
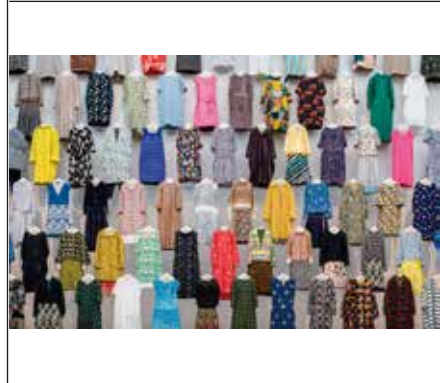

















画像使用に際しての注意

このプレスリリースに掲載されている画像データをプレス掲載用にご用意しております。末尾の「申込書」をご使用ください。

- 作品画像を媒体掲載される際には、「申込書」に記載の作品名などを必ず入れてください。
- 作品画像は全図で使用してください。トリミングや文字を重ねるなど画像の加工・改変はできません。
- 画像データ使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。それ以外での使用はできません (会期終了まで)。
- 再放送、転載など二次使用をされる場合には、別途申請いただきますようお願いいたします。
- 雑誌の表紙などに使用される場合は、「営業・広報担当」までご相談ください。
- WEBサイトに掲載する場合は、画像を72dpi以内に設定のうえコピーガード (※右クリック不可) を施しダウンロード不可にしてください。
- 基本情報、図版使用の確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で「営業・広報担当」までお送り願います。
- 展覧会場の取材、撮影をご希望の場合についても、「営業・広報担当」までご連絡ください。事前にご連絡のない取材・撮影はお断りいたします。
- 本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体 (VTR/DVD)、URLなどを、「営業・広報担当」宛てに、1部お送りくださいますようお願いいたします。

<p>11</p> 	<p>12</p> 	<p>13</p> 
<p>14</p> 	<p>15</p> 	<p>16</p> 
<p>17</p> 	<p>18</p> 	<p>19</p> 
<p>20</p> 	<p>21</p> 	<p>22 以降、本展の展示風景画像を追加</p> 

23	24	25
		
26	27	28
		
29	30	31
		
32	33	34
		

35	36	37
		
38	39	40
		
41	42	43
		
44		
		

広報画像申込書

特別展

「ミナ ペルホネン／皆川明 つづく」2020年7月3日(金)～11月8日(日)

※前頁「画像使用に際しての注意」をご一読のうえ、ご希望の画像の番号に○をつけてください。

-
- 1) ©Photograph Yoshihiko Ueda
-
- 2) [参考図版] 本展東京会場「実」セクション 撮影：吉次史成
-
- 3) “tambourine” 2005-06→AW
-
- 4) [参考図版] 本展東京会場「森」セクション 撮影：吉次史成
-
- 5) “sky flower” 2012-13→AW 原画 photo: Yurie Nagashima
-
- 6) “one day” 原画 2018-19→AW photo: sono (bean)
-
- 7) [参考図版] 本展東京会場「種」セクション 撮影：吉次史成
-
- 8) 「高揚」朝日新聞・日曜に想う 2016年8月28日掲載 挿画
-
- 9) [参考図版] 本展東京会場「土」セクション 撮影：吉次史成
-
- 10) [参考図版] 本展東京会場風景 撮影：吉次史成
-
- 11) photo: Mitsuo Okamoto
-
- 12) “metsä” 2012→SS photo : Yasutomo Ebisu
-
- 13) “pur” 2018-19→AW photo: Mitsuo Okamoto
-
- 14) “forest parade” 2012→SS photo: L.A.TOMARI
-
- 15) photo: Ryo Ichii (nomadica)
-
- 16) photo: Mitsuo Okamoto
-
- 17) “ballade” 2007-08→AW photo: Yoshiharu Koizumi
-
- 18) “pot-au-feu” 2015-16→AW photo: Yasutomo Ebisu
-
- 19) “symphony” 2019-20→AW photo: sono (bean)
-
- 20) “tambourine” 2017→SS photo: Shoji Onuma
-
- 21) 本展ポスター画像

-
- 22) 本展「雲」セクション Photo : Ooki JINGU
-
- 23) 本展「雲」セクション Photo : Ooki JINGU
-
- 24) 本展「実」セクション Photo : Ooki JINGU
-
- 25) 本展「実」セクション Photo : Ooki JINGU
-
- 26) 本展「実」セクション Photo : Ooki JINGU
-
- 27) 本展「森」セクション Photo : Ooki JINGU
-
- 28) 本展「森」セクション Photo : Ooki JINGU
-
- 29) 本展「森」セクション Photo : Ooki JINGU
-
- 30) 本展「芽」セクション Photo : Ooki JINGU
-
- 31) 本展「芽」セクション Photo : Ooki JINGU
-
- 32) 本展「芽」セクション Photo : Ooki JINGU
-
- 33) 本展「風」セクション Photo : Ooki JINGU
-
- 34) 本展「根」セクション Photo : Ooki JINGU
-
- 35) 本展「根」セクション Photo : Ooki JINGU
-
- 36) 本展「根」セクション Photo : Ooki JINGU
-
- 37) 本展「種」セクション Photo : Ooki JINGU
-
- 38) 本展「種」セクション Photo : Ooki JINGU
-
- 39) 本展「種」セクション Photo : Ooki JINGU
-
- 40) 本展「種」セクション Photo : Ooki JINGU
-
- 41) 本展「土」セクション Photo : Ooki JINGU
-
- 42) 本展「土」セクション Photo : Ooki JINGU
-
- 43) 本展「空」セクション Photo : Ooki JINGU
-
- 44) 本展「空」セクション Photo : Ooki JINGU

●貴媒体についてお知らせください。

○貴社名：

○媒体名： (新聞・雑誌・ミニコミ・TV・ラジオ・ウェブサイト・その他)

※ウェブサイトへ掲載ご予約の場合、いずれかに○をつけてください。 コピーガード対応 可 ・ 不可

○ご担当者名： ○メールアドレス：

ご連絡先 ○電話番号： ○FAX 番号：

○ご住所： 〒

○URL：

○掲載・放送予定日： ○画像到着希望日：

※ 読者・視聴者プレゼント用招待券は現在配布していません。